

オープン市場短信 (2005年5月)

2005.5.12

4月のCP市場動向

4月のCP(手形及び電子CP)の新規発行は約2兆5,200億円と期落ち(約1兆5,200億円)を約1兆円上回った。新規発行のほとんどが電子CPであり、手形CPから電子CPへの移行はスムーズに進んでいる。5/12公表された日銀の統計・データによると、電子CPを含めたCPの4月末残高は16兆5,446億円(銀行等発行分含む)であった。

電子CPは9兆8,618.74億円(証券保管振替機構発表)と前月比倍増(3月末残4兆8,633.41億円)しており、4月末時点で約6割が電子CPに振り替わったといえよう。

事業会社等の電子CPの初発行も順調に行われており、4月の初発行企業は87社(内SPC29社)にのぼった。都銀等が組成しているABCPが電子CP(短期外債)に振り替わったことも大幅増の要因となっていた。

4月末現在の電子CP残高のうち約32%を電子ABCPが占め、発行上位10社では5社が電子ABCPであった。同じく電子CP発行登録企業数は、前月末比49社増の305社。既発行企業は、月中で87社増え合計199社となった。4月末の発行企業数は、合計で180社であった。

発行レートは、電子化移行の本格化で、月初やや高止まりとなったものの徐々に落ち着き、中旬以降一般銘柄は前年同月の手形CPと変わらない水準まで低下した。最終投資家の運用ニーズが強い電力会社等の最上位格付け銘柄は、ほとんど問題なく消化された。しかし、最上位格付け銘柄以外では、発行量の多い企業や従来現先取引に多く利用されていたリース会社CPの発行レートは、期末越えのレート水準で高止まりの格好になった。電子CPによる現先取引は、まだ活発化していない。

銘柄別の発行レート

【最上位格付け銘柄】0.004~0.01%前半。

【オペ適格銘柄(a-1)】0.01~0.02%台。

【ノンバンク・リース会社】a-1+銘柄 0.003%~0.01%台後半。

a-1銘柄(オペ適格)0.01%台~0.05%台。

【a-2格銘柄】0.03%近辺~0.20%台後半。

CPオペ

ABCP買切りオペは、今月も2回オファーされオファー金額はいずれも1,000億円。8日オファー分は業者3社、20日オファー分は業者2社の応札でいずれも応札が300億円台と低調な入札結果に終わった。平均落札利回較差はいずれも0.000%であった。

CP現先オペは、月中5回の期日に淡々とロールが行われた。前半2回のオペは、都銀上位行の積極的な入札があったため、オファー金額を上回る応札となった。しかし、後半3回のオペは投資家への転売が進んで、ディーラーの手持ちも減少していたことなどから、いずれも札割れとなった。

4月末のCP オペ残高

ABCP 買切りオペ 611 億円

CP 現先オペ 2兆5,477 億円

(内資産担保 CP 3,845 億円/短期社債 7,900 億円/資産担保短期債券 2,272 億円)

ABCP

4月末のABCPの発行残高は、約6兆1千億円と前月比約4,000億円減少し、なかでも都銀組成のプログラムの減少が目立った。

電子ABCPは、登録SPC52社中44社が発行しており、発行残高は約3兆1,290億円となっている。

現先市場

月中現先レートは、0.004～0.008%のレンジでの出会い。

5月のCP市場動向

5月中のCP償還は、前年同月比2,300億円増の約2兆7,000億円が確認されている。

リース会社中心に電子CP移行準備のため、年明けから長めのターム物が発行されていたが、今月からそのエンドが到来するため期落ちが多くなっているようだ。また、今月末には納税資金やボーナス資金手当ての発行ニーズが強まることが予想される。

このため、5月の新規発行は3兆円前後まで膨らむだろう。

現状、電子CPは運用難に苦しむ投資家のニーズとも合致し、順調な滑り出しとなっている。ただ、現先取引を取り上げてみるとその準備を終えている投資家は、まだまだ少ないようである。今後、保振システムの整備も含め、現先取引への対応が進むまでは、従来ディーラーが現先玉用に購入していた銘柄については、発行レートの高止まりが継続すると思われる。

CP オペ

ABCP 買切りオペは、参加ディーラーが限られているため、ディーラーの適格 ABCP 保有状況を勘案したうえで、実施されるだろう。

現先オペについては、5月中に3回の期日が到来するが、4月中の発行も多くなかったことから、ディーラーのオペ適格玉の手持ちも少ないと思われ、淡々と期日のロールが行われるだろう。

現先市場

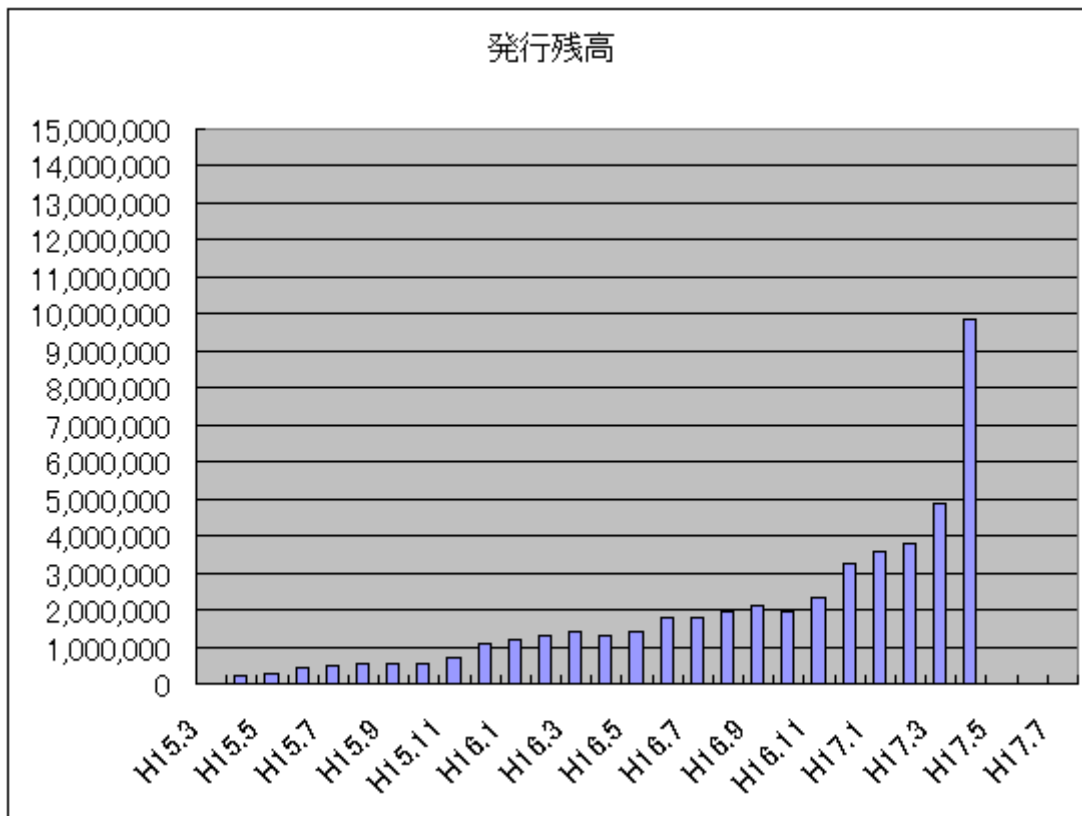
月中現先レートは、T/N・S/N とともに 0.003～0.007%、ターム物で 0.005～0.008%近辺での出会いを予想。

4月末現在の発行企業上位10社（残高ベース）

1. オリックス	5,788億円
2. アルカディアF	4,830億円
3. エイペックスF	4,717億円
4. 東京三菱銀行	4,441億円
5. ミレニウムアセット	3,664.1億円
6. UFJ銀行	3,492億円

- 7. フォレスト・コーポ 3,428.06億円
- 8. みずほホールディングス 3,160億円
- 9. ダイヤモンドリース 3,003億円
- 10. コンチェルトRC 2,916億円

短期社債月末残高 (H15年3月～H17年4月)



参考出所 (株)証券保管振替機構

(松倉)